

第1章 | 都市づくりのグランドデザインの改定

01 改定の背景・目的

都は、平成29年(2017年)9月に「都市づくりのグランドデザイン」を策定し、「活力とゆとりある高度成熟都市」の実現に向けた都市づくりを進めてきました。

策定以降、複数の鉄道プロジェクトが事業化されるとともに、道路ネットワークの形成とあわせ、道路空間の再生に向けた具体的な取組である東京ストリート+が進展しています。さらに、国際的なビジネス拠点の形成や木造住宅密集地域の改善が進むなど、都市の成長と安全性の向上に向けた取組が着実に成果を上げています。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大という未曾有の状況の中、様々な制約の下で成功裏に開催された東京2020大会では、大規模な国際大会を支える東京の都市としてのマネジメント力を国内外に示しました。

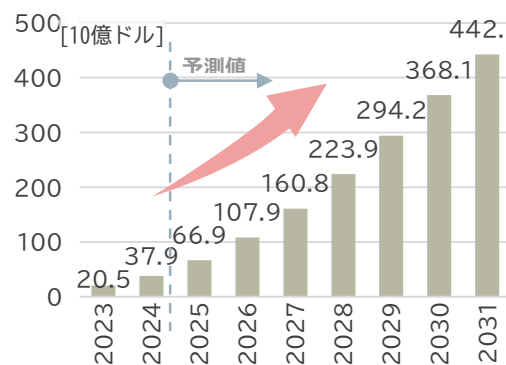
一方、少子高齢化・人口減少社会の進行により、多摩・島しょ地域では既に人口減少局面に入り、インフラや建築物などの都市ストックは更新時期を迎えています。さらに、ここ数年で、生成AIをはじめとした技術革新が予想を超えて急速に進展し、人々の暮らし方や働き方に大きな変革をもたらすとともに、新型コロナを契機とした都市のゆとりや空間に対する考え方が大きく変化しています。また、切迫する首都直下地震や気候変動に起因した水害の頻発化・深刻化など、東京を取り巻く社会経済情勢はこれまでにない急激に変化しています。

こうした変化に対応しながら、世界から人材や投資を惹きつけ、多様な主体が交流する都市として持続的に発展していくためには、これまで築き上げてきた都市づくりの取組を着実に進めるとともに、これまでの延長線上にとどまらない新たな都市づくりの方向性を示していく必要があります。

都市づくりの成果や課題、社会経済情勢の動向を踏まえ、2050年代を見据え、「活力とゆとりある高度成熟都市」の理念を継承・発展させるとともに、東京ならではの魅力に彩られた唯一無二の都市を目指し、「都市づくりのグランドデザイン」を改定します。

■ AIや自動運転などの先端技術の急速な進化

世界の生成AIの市場規模の推移及び予測

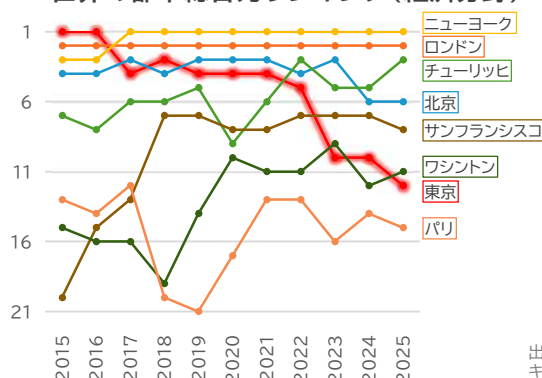


- ✓ AIやロボティクスなどの技術革新が急速に進展
- ✓ デジタル技術の社会実装が様々な分野で拡大
- ✓ 技術が産業や暮らしに大きな変化をもたらす

出典：総務省「令和8年版 情報通信白書」
(<https://www.soumu.go.jp/i-hotusinto/kei/whitepaper/a/r08/pdf/00zentai.pdf>)をもとに東京都作成

■ 国際競争の激化

世界の都市総合力ランキング(経済分野)



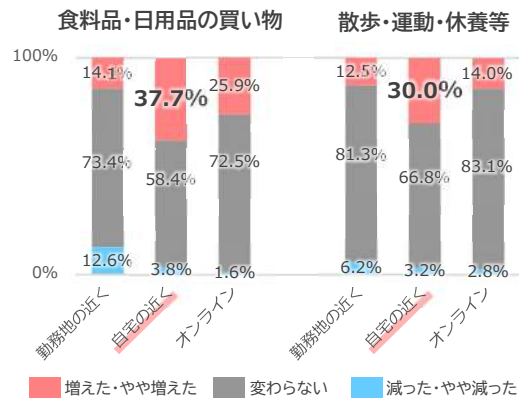
- ✓ 森記念財団が発表した世界の都市総合力ランキング(2025年)では2位、一方で、経済分野では12位に後退
- ✓ 企業・投資・人材の獲得競争が世界規模で展開
- ✓ 都市の魅力や国際競争力がこれまでに以上に重要

出典：一般財団法人森記念財団都市戦略研究所「世界の都市総合力ランキング」をもとに東京都作成

第1章 | 都市づくりのグランドデザインの改定

■ コロナ禍以降のニーズの変化

テレワークするようになってからの活動頻度の変化

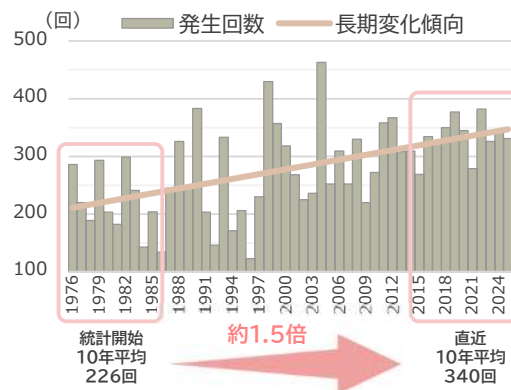


- ✓ 活動圏が自宅周辺・オンラインヘシフト
- ✓ 身近な生活圈や緑・ゆとりを求める傾向が増大
- ✓ 余暇や対面活動の価値が改めて再評価

出典：国土交通省「令和6年度テレワーク人口実態調査－調査結果－」
(<https://www.mlit.go.jp/toshi/kankyo/content/001879091.pdf>)をもとに東京都作成

■ 豪雨の頻発化・激甚化

1時間降水量50mm以上の年間発生回数(全国)



- ✓ 時間50mmを超える降雨回数は約40年前と比較して1.5倍に増加
- ✓ 集中豪雨や浸水被害のリスクが高まる傾向
- ✓ 気候変動による水害対策の重要性が増大

出典：気象庁気候変動ポータル
(https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/extreme/extreme_p.html)をもとに東京都作成

■ 首都圏のインフラ整備の進展

インフラ整備による時間距離効果

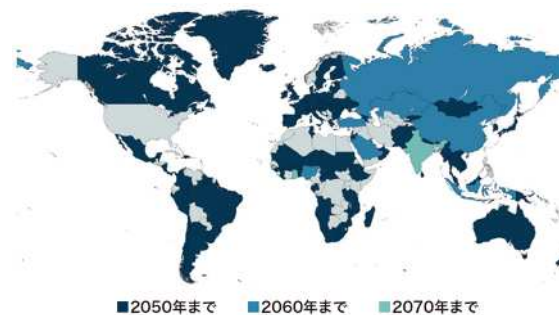


- ✓ 広域交通ネットワークの整備が着実に進展
- ✓ 首都圏各地との時間距離が短縮し、交流圏が拡大
- ✓ 一方で整備途上の路線や事業も存在

出典：東京都建設局「道路の建設」をもとに作成

■ 脱炭素化に向けた国際的な潮流の加速

期限付きカーボンニュートラルを表明した国・地域



- ✓ 脱炭素化が世界的な共通課題となり、取組が加速
- ✓ 企業活動や投資において環境への配慮が重視
- ✓ 都市にも脱炭素化への責任が求められる状況

出典：経済産業省「日本のエネルギー2025」
(https://www.enecho.meti.go.jp/about/pamphlet/pdf/energy_in_japan2025.pdf)を引用

第1章 | 都市づくりのグランドデザインの改定

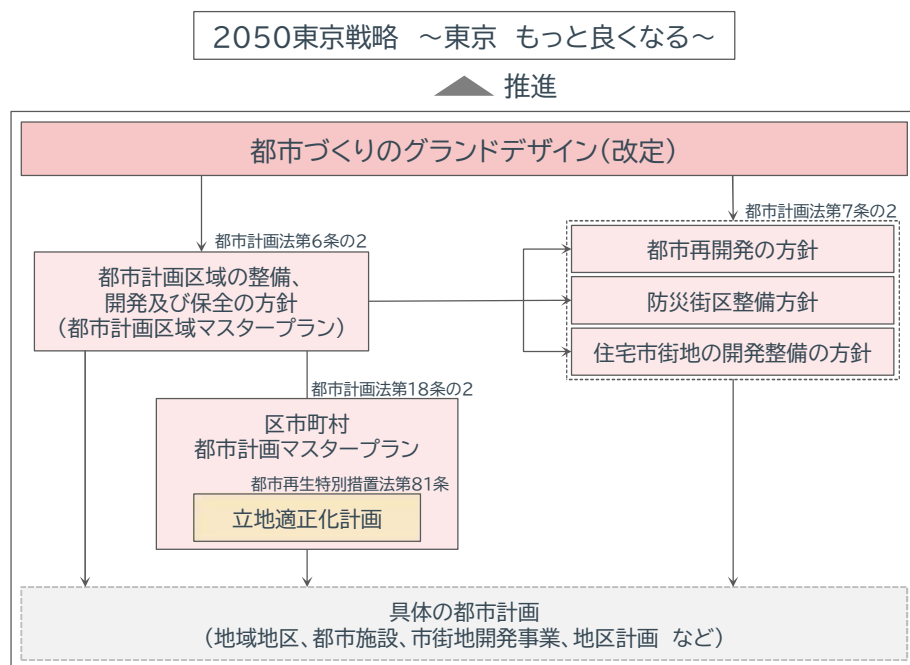
02 位置付け

「都市づくりのグランドデザイン」は、平成28(2016)年9月に東京都都市計画審議会から示された答申「2040年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について」を踏まえ、目指すべき東京の都市の姿と、その実現に向けた都市づくりの基本的な方針と具体的な方策を示した行政計画です。

本改定は、都政の羅針盤である「2050東京戦略 ～東京 もっと良くなる～」の下、他の政策や計画との整合を図りつつ、検討を進めたものです。

なお、本計画は目指すべき都市の姿や戦略を明らかにすることに主眼を置いています。このため、必要な財源やスケジュールは、今後、都市計画区域マスタープランや個別の都市計画、様々なプロジェクトなどにより、それぞれの事業を進めていく際に明らかにしていきます。

都市づくりの体系



03 目標時期

社会の変化やインフラの整備の見込みを踏まえながら、長期的な視点に立った都市づくりを展開するため、おおむね四半世紀先の未来である2050年代を目標時期として設定します。

2050年に想定される社会の変化やインフラ整備のイメージ

